

衝撃緩和型畳床(JIS A5917)について

畳床に衝撃緩和性という性能を加え、安全・安心な新たな畳床を開発いたしました。

● 衝撃緩和型畳床の特性・メリット

一般の畳やフローリングと比較して、滑りにくく、つまずきにくいいため歩きやすい。衝撃を和らげるため、膝に負担がかからず、疲れにくい。

▶ 足の疲労感を軽減・歩いていて気持ち良い。(建築部位部材性能研究会の試験結果より)

万が一転倒してもクッション性のある構造で衝撃を緩和することができる。

▶ 骨折などのリスクを軽減・転んでも痛くない。

断熱性能をもつ素材を使用 ▶ 断熱効果に優れ、足元からの冷えを軽減。

品質保証の公認マーク

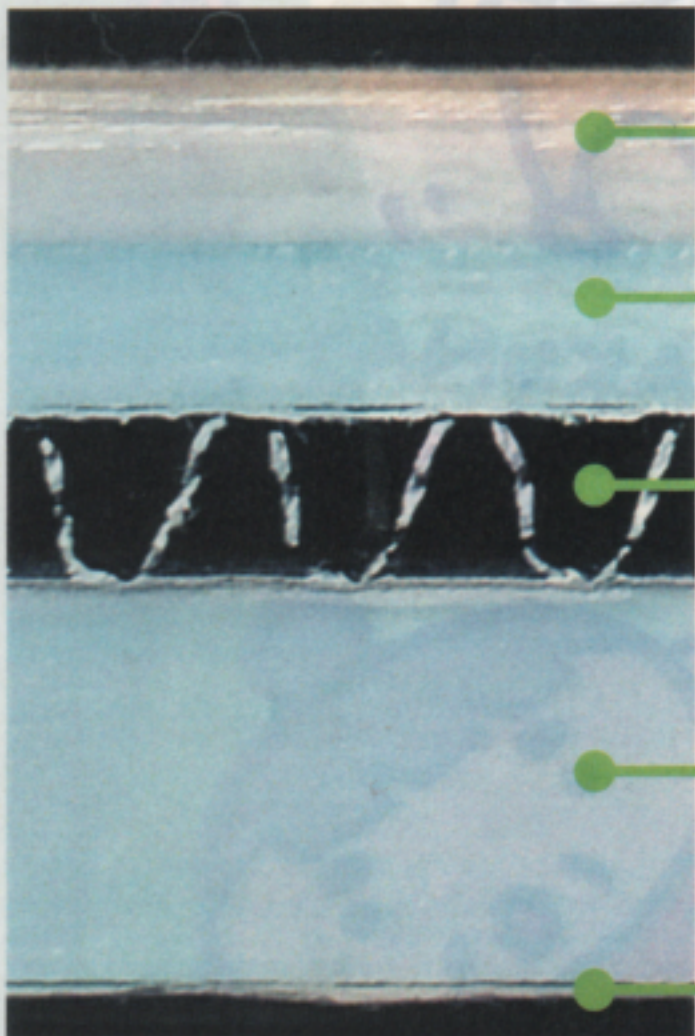
JIS A5917の性能を満たした畳床には、製品の品質が保証されたものとして、全日本ISO畳振興協議会・全日本畳事業協同組合の公認マークが付与されます。

衝撃緩和型畳床

全日本ISO畳振興協議会

全日本畳事業協同組合

● 衝撃緩和型畳床の断面形状



① 表面材

表面材は、クッション性かつ、反発力のある部材で、その下にある高密度押出発泡材(HI)を保護する機能を持つ。

② 断熱材

断熱材である高密度押出発泡材(HI)は、その下にあるコルゲート板によりしなやかにたわむ性能を持つ。

③ 緩衝材

緩衝材であるコルゲート板(波板)はメッシュ構造で、上部の表面材・断熱材をしなやかにたわませる機能を持ち、かつ反発力を併せ持ち、歩きやすくする機能を持つ。

④ 断熱材

断熱材である押出発泡材は、上部からの衝撃を受け止める役割を持つ。

⑤ 裏面材

裏面材は、④断熱材の引っかけ等の保護の役割を持つ。

● 通常の畳床と衝撃緩和型畳床の比較

衝撃緩和型畳床



たわみ変形

による緩和
衝撃緩和効果 **大**

一般の建材畳床



局部変形

による緩和
衝撃緩和効果 **小**

たわみ変形による緩和の方が、局部変形より衝撃を緩和することができ、安全性が高くなる。よって、転倒時のリスクを最小限に抑えることができる。